

所 信 表 明 書

公立大学法人広島市立大学
理事長選考会議議長 様

私は、公立大学法人広島市立大学理事長選考対象者になるに当たり、次のとおり所信を表明します。

平成30年9月20日

氏 名 若 林 真 一

個人情報保護のため印影を消しています

現在の日本の社会は、少子化による人口減少と高齢化、労働人口の減少、人口の都市集中と地方の衰退、インターネットと人工知能（AI）の進展による労働形態の変容等、これまでの日本の社会が経験したことのない大きな変革期を迎えている。

こうした中、平成6年（1994年）に建学された本学は平成31年度に建学25周年を迎え、第2四半世紀に入る。私が第2四半世紀の最初の理事長・学長に選考されたならば、社会の変革期に対応しつつ、建学50周年を目指し、「国際平和文化都市」を都市像として掲げる広島市が設置した公立大学として、地域において確固たる地位を築けるよう、大学の運営に全力で臨みたい。

以下、理事長選考会議の質問事項に答える形で、個別事項の基本方針を示す。

（総括）

●本学の現状をどのように捉え、将来像をどのように考えているのか。

本学は平成31年度に建学25周年を迎える。この間に、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」の建学の基本理念を具現化する基盤がしっかりと形作られ、地域に根付いたと考える。特に、平成22年（2010年）の法人化後、「いちだい知のトライアスロン」事業等による全学共通教育（教養教育）の充実、地（知）の拠点大学（COC+）事業による地域貢献人材育成の強化、海外学術交流協定大学の拡充等と国際学生寮新設によるグローバル人材育成の強化、運営調整会議の新設等による大学ガバナンスの強化と意思決定の迅速化などは本学の教育研究の充実に大きく貢献したと考える。一方、社会が大きく変容している中、解決を要する課題も多く抱えており、的確かつ迅速な大学運営が求められている。

大学の将来像としては、第1四半世紀で築かれた基盤をさらに発展させ、広島地域において確固たる地位を築き、名実共に「市民に愛され、市民の誇りとなる大学」（「広

島市立大学将来計画」平成17年3月)となることを目指したい。

(教育研究)

●国際学、情報科学、芸術学及び平和学の特色ある学部、研究科及び研究所の構成を生かした質の高い教育研究を行うため、どのように取り組んでいくのか。

教育については、教学 IR (Institutional Research) を導入し、データに基づいて適切に PDCA をまわすことで教育の質の保証と向上を図る仕組みを確立する。また、本学のユニークな学部・研究科構成を活かし、情報科学と芸術学のような学際分野での教育研究を充実する。そのために、規程等の見直しや必要に応じた人材確保を図る。

また、平成33年度の大学入学者選抜改革・高大接続システム改革に合わせて主体的な学びの充実を図るなど、学部教育の改革を行う。大学院教育においても、従来の研究者養成とともに高度専門職業人を養成する教育の充実を図る。

研究については、研究意欲の高い教員に対し、研究費や研究環境の充実を図ることで質の高い研究を奨励する。また、本学が今後、発展させるべき教育研究分野を見極め、その分野の充実を可能とする人材の獲得にも注力する。

(平和)

●広島の高等教育研究機関として世界平和に貢献するため、どのように取り組んでいくのか。

これまでも本学は平和関連教育に注力しており、研究についても広島平和研究所を中心に活発に研究を行ってきた。平成31年4月の大学院平和学研究科の設置を機に、今後は平和学研究科を中心として、平和に関わる幅広い人材を社会に供給すると共に、平和学に関する研究成果を世界に還元することで世界平和に貢献する。

(人材育成)

●国際社会及び広島都市圏をはじめとした地域の発展に貢献する人材を育成するため、どのように取り組んでいくのか。

本学はこれまでもグローバル人材育成に取り組んできたが、留学生をさらに増やすなど、大学のグローバル化を進めると共に、教育内容においてもグローバルな視点を取り入れることでグローバル人材育成教育の充実を図る。

また、本学は広島市が設置した公立大学として、地域貢献人材の育成にも取り組んできた。特に平成27年(2015年)に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、全学の教育カリキュラムとして「地域貢献特定プログラム」を整備した。COC+事業は平成31年度末で文部科学省の補助期間は終了するが、その後もCOC+事業のカリキュラムやノウハウを活用し、地域貢献人材の育成に取り組んでいく。

さらに、平成29年度に本学独自のリーダー人材育成事業として広島市立大学塾を開

設し、各分野におけるリーダーとなるべき人材の育成にも取り組んでいる。今後もリーダー人材育成に積極的に取り組むことで国際社会や地域でリーダーとして活躍する人材を育成する。

(国際化)

- 大学の国際化を推進するため、どのように取り組んでいくのか。

本学の海外学術交流協定校は現在 21 大学ある。今後もある程度は協定校を増やしたいと考えているが、特に重点を置くこととして、協定校との間での本学からの派遣学生と受け入れ学生の増加に取り組む。派遣学生の増加策として、留学入門コースとしての短期海外留学・文化研修を拡充する。また、学部・大学院教育における英語開講科目を増やす。平成 30 年 4 月に開設された国際学生寮「さくら」のポテンシャルはさらに引き出せると考えており、国際学生寮を活用して正課内および正課外のグローバル人材育成教育の一層の充実に取り組む。外国人専任教員の増加策も検討する。

(社会貢献)

- 広島都市圏の「知」の拠点として、都市機能の強化及び地域の活性化に貢献するため、どのように取り組んでいくのか。

都市が必要とする種々の知の提供と地域貢献人材の供給を充実する。さらに、芸術学部アートプロジェクトを中心として、都市機能の強化や地域の活性化に大学が直接取り組む事業を展開する。

(大学運営及び法人経営)

- 業務運営の改善及び効率化に関し、どのように取り組んでいくのか。

事務処理に関するコスト削減のために業務の見直しと簡素化、システム化を進める。また、広島市との関係に留意しながら事務職員のプロパー職員化を進めることで、大学業務に精通した事務職員を育てる。

- 財務内容の改善に関し、どのように取り組んでいくのか。

これまでも本学で行ってきたことを踏襲・拡充し、適切な入札制度の選択やリース契約期間等を常に見直すことで、より一層の支出削減を図る。また、外部資金獲得に一層注力する。大学独自の財源として広島市立大学基金の拡充にも努める。

- 戦略的かつ機動的な大学運営を行うため、どのように取り組んでいくのか。

大学運営の戦略と運営方針の明確化と不断の見直しを行う。適切な判断を迅速に行うために IR を活用する。大学運営に係る PDCA の強化にも努め、必要に応じて事業見直しを行う。災害対応を含む危機管理を強化する。

- 同窓会組織の活性化や同窓生と大学の相互の協力・支援の強化に関し、どのように取り組んでいくのか。

本学には現時点で 8,000 名を超える同窓生がおり、最年長者は 40 代前半となって

いるが、同窓会組織が自立して活発に活動している状況にはない。この状況を改善し、同窓会を活性化するため、同窓会執行部と大学が緊密に連携し、同窓生に魅力ある同窓会にしていく。そのために、ホームカミングデーの開催や同窓会の情報発信を活発に行っていく。

(以上)

※所信には、公立大学法人広島市立大学の将来ビジョン並びに教育、研究、社会貢献、大学運営及び法人経営の基本方針について、3,000字以内で記載してください。
※理事長候補者の選考過程において、この所信表明書は公開されます。